

獣医師通信

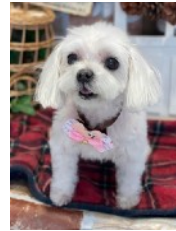
病気の早期発見、早期治療のために健康診断をお勧めします。
詳しくはスタッフにお問い合わせください。

看護師通信

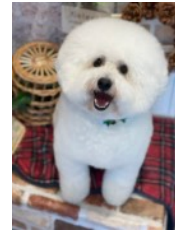
12月はフィラリア予防の最後の月です！最後の投薬が一番大事なのでしっかり予防しましょう。年末年始のペットホテルは大変混み合います！ご予約はお早めに。

トリマー通信

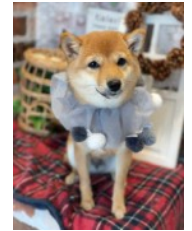
12月は選べるオプションセットのご案内です。さらにオプションセットを付けていただいた方、全員にハズレ無しのくじ引きをプレゼント致します！是非この機会にお試し下さい！12月末は大変混み合いますのでお早めのご予約を心よりお待ちしております！



平田そらちゃん



高橋ボンくん



小林さくらちゃん

獣医師コラム

TPLO法（脛骨高平部水平化骨切り術）

・TPLO法とは

TPLO法は、犬猫の前十字靭帯断裂の治療法の一つです。1993年に、世界的に有名な獣医外科医のSlocumらにより考案され、今日までに、TPLO法を用いた術後経過に関する報告が世界中でなされており、現在のところ、最も成績の良い治療法とされています。TPLO法が普及する以前は、関節外制動法が多く用いられていました。関節外制動法が靭帯を補完する手術法であるのに対し、TPLO法は関節に安定性をもたらす手術法です。つまり、生体の靭帯や人工靭帯に頼らずに膝関節が安定化するという、非常に画期的な手術法が考案されたのです。TPLO法には特別な医療機器と技術が必要ですが、関節外制動法と比較して、術後早期の回復が得られること、術後の機能回復がより良好であること、術後の骨関節炎の進行がより軽度であること、術後の半月板損傷発生率が低いなどのメリットがあります。また、小型犬においても一般的に行われている関節外制動法と比較し、良好な改善が認められています。

・TPLO法における私の見解

私自身、TPLO法を始めるまでは、糸を用いて固定する関節外制動法（Flo法）を行っていました。しかし、術後に糸が緩んだり切れたりすることで、再手術になることもしばしばありました。そして、Flo法の変法であるスーチャーアンカー法やタイトループ法なども含めて、100症例以上の手術を行いました。術後の成績は改善しませんでした。そういう経緯もあり、8年程前からTPLO法を用いるようになりました。現在では、私のTPLO法における執刀症例数は、160症例以上になっております。この160症例のうち、再手術が必要であった症例は、わずか1症例であり、術後3ヶ月の時点で跛行が改善しなかった症例は、0症例でした。この成績は驚異的だと思います。獣医整形外科において、これほど効果的で、安定した成績をもたらすことのできる術式は、他にないと思っています。現在では、インプラントメーカー各社から、多様な形状のTPLO用プレートが開発されているため、膝蓋骨内方脱臼を併発した症例や、超小型犬や猫であっても、良好な成績を得ることができています。よって、現在TPLO法における私の実績は、相模原町田地域においては、最上位にあると自負しております。

院長 大川雄一郎

・様々な形状のTPLOプレートを用いた当院での手術症例

裏面に続く

獣医師コラム

TPLO法 (脛骨高平部水平化骨切り術)

・様々な形状のTPLOプレートを用いた当院での手術症例



LCP2.0 Plate
小型犬における膝蓋骨内方脱臼併発症例
脛骨遠位を外旋固定



Fixin Micro Plate
超小型犬における膝蓋骨内方脱臼併発症例
脛骨遠位を外旋固定



NXT1.5 Plate
超小型犬における膝蓋骨内方脱臼併発
併発
脛骨粗面転移術を併用



Fixin Mini Plate
中型犬における膝蓋骨内方脱臼併発症例
脛骨近位を内側ヘスライド固定



SOP3.5 Broad Plate
超大型犬におけるexcessive TPA症例